

HSBC インド・インフラ株式オープン

足元の運用状況とインド経済およびインフラ関連株式の見通し

2025年1月

- ◆ これまでの順調なインド経済の拡大と、インフラ関連事業の着実な進行を背景に、当ファンドの直近約3年間のパフォーマンスは+89.3%となっています。（2025年1月17日時点）
- ◆ しかし足元3ヶ月の基準価額においては、上下するものの一進一退の動きとなっており、足元1ヶ月では-11.0%となっています。
- ◆ 当資料では、足元の「インド経済の成長鈍化懸念」、「第2次トランプ政権発足後のインド株式の見通し」、「インフラ関連の進捗」、「今後の見通し」、「当ファンドの運用方針」についてご案内いたします。

当ファンドの基準価額（分配金再投資基準価額）の推移（過去3年）

（2022年1月4日～2025年1月17日）



分配金再投資基準価額は税引前分配金を再投資したものです。将来の分配金は、運用状況によって変化します。

期間別騰落率（税引前）

（2025年1月17日時点）

1ヶ月	-11.0%
3ヶ月	-11.0%
6ヶ月	-16.8%
1年	15.8%
3年	89.3%
設定来	96.3%

* 騰落率は税引前分配金を再投資したものと計算しています。

データ等は過去の実績あるいは予想を示したものであり、将来の成果を示唆するものではありません。

当資料の「留意点」については、後掲をご覧ください。

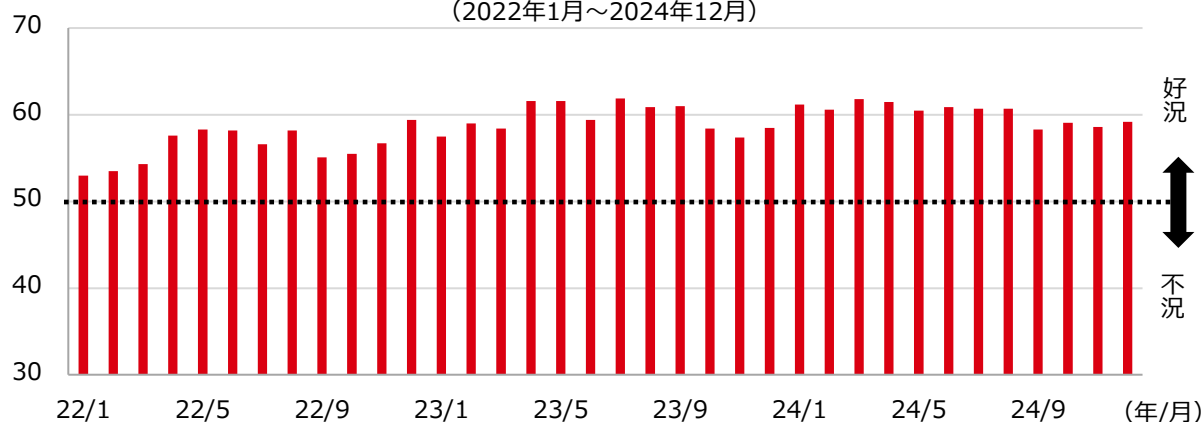
1.インド経済の成長鈍化懸念

- ◆ インド経済全体について、7-9月期のGDP成長率が市場予想に達しなかったことから、**当面の成長ペースは緩やかになるとみていますが、PMI（HSBCインド総合購買担当者景気指数）は好不況の分岐点となる50を上回っており、景気拡大は巡航速度で進んでいる**ことが確認できます。
- ◆ 企業利益見通しについて、2024年度の市場予想は早期に引き下げられた一方で、個々の企業が発表した2025年度の業績見通しは引き下げられておらず、企業側の強気見通しに懐疑的な見方が生まれました。
- ◆ 上記の材料を基に、海外投資家がポジションを調整していることが株価の重しになっていると考えます。

景気拡大は巡航速度で進んでいる

インド総合PMIの推移

(2022年1月～2024年12月)



2024年度の見通しが引き下げられる

2024年度の企業利益成長率見通し (市場予想)

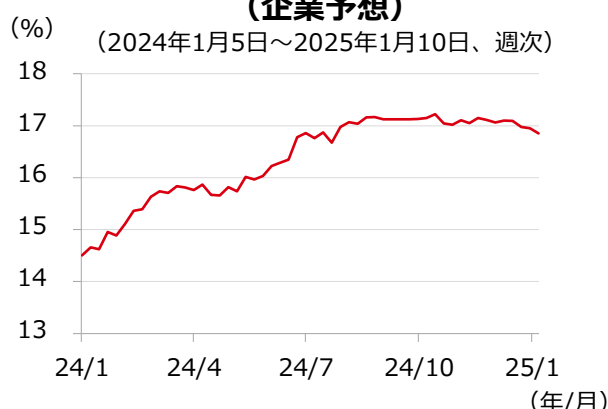
(2024年1月5日～2025年1月10日、週次)



一方で、2025年度の見通しは変わらず

2025年度の企業利益成長率見通し (企業予想)

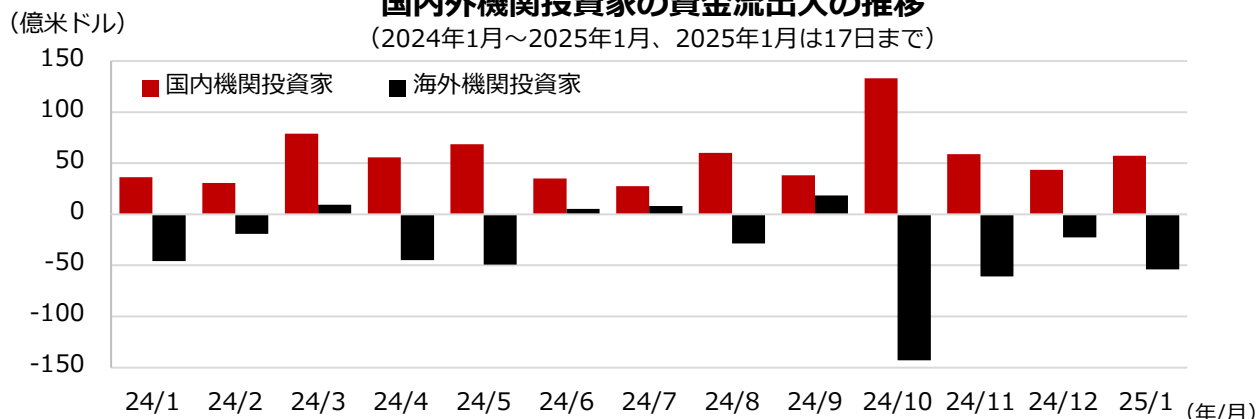
(2024年1月5日～2025年1月10日、週次)



国内投資家は流入が継続するものの、海外投資家の資金が流出

国内外機関投資家の資金流入の推移

(2024年1月～2025年1月、2025年1月は17日まで)



出所：ブルームバーグ、HSBCグローバルリサーチのデータをもとにHSBCアセットマネジメント株式会社が作成

データ等は過去の実績あるいは予想を示したものであり、将来の成果を示唆するものではありません。

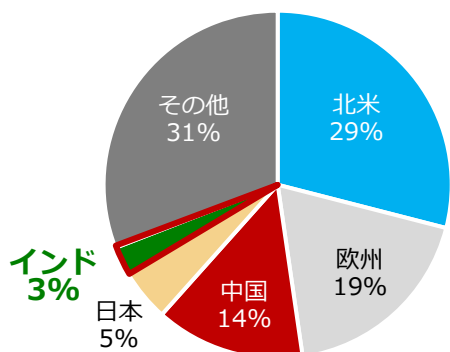
当資料の「留意点」については、後掲をご覧ください。

2.第2次トランプ政権発足後のインド株式の見通し

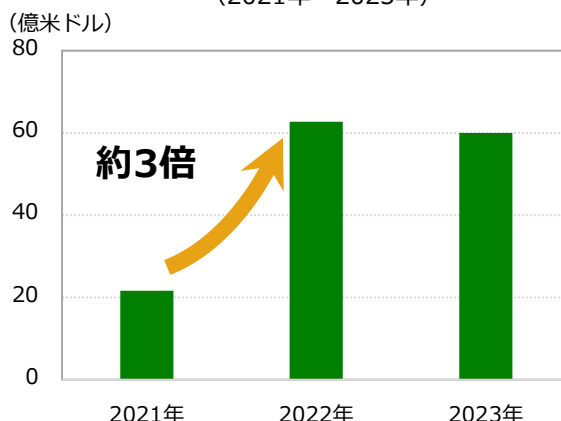
● トランプ氏はインドを敵視せず

- ◆ 米国の国別輸入比率でインドは3%に留まっていることから、米国が今後インドに対して強硬な姿勢に転換することは考えにくいと見ています。
- ◆ 2018年頃に始まった米中貿易摩擦による中国製品の輸入禁止や関税の引き上げ、またコロナ禍によるサプライチェーンの再構築により、インドはグローバル・サプライチェーンの重要な拠点となり、チャイナ・プラスワン戦略の大きな恩恵を受けてきました。
- ◆ サプライチェーンの再構築を通じて米国のインドへの直接投資額は大幅に拡大しました。このため、第2次トランプ政権においても、インド経済は安定的に拡大すると考えます。

米国の国別輸入比率
(2023年)



米国の対インド直接投資額 (フローベース)
(2021年~2023年)

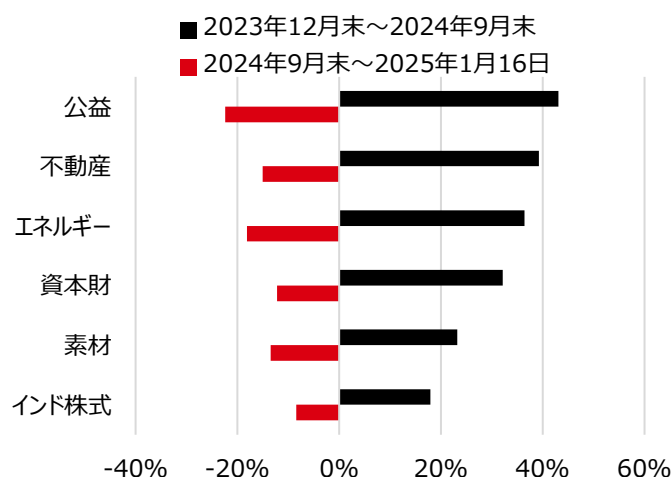


出所：日本貿易振興機構（ジェトロ）のデータをもとにHSBCアセットマネジメント株式会社が作成

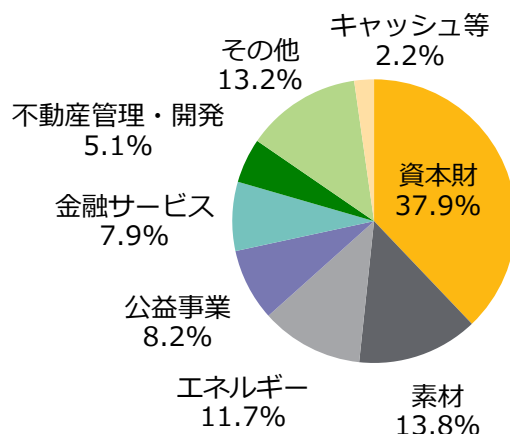
● 原油価格の動向

- ◆ 当ファンドが有するセクターの資本財、素材、公益、不動産セクターの株価が軟調に推移しており、特に、組入比率の大きな資本財セクターの下落率が大きくなっています。
- ◆ 背景として、これらのセクターは原油価格や金利動向の影響を受けやすく、米国によるロシア産原油輸出への制裁拡大に伴う足元の原油価格上昇や、インフレ率上昇による利下げ期待の後退などが影響していると思われます。
- ◆ こうしたなか、バリュエーション面で調整が入り、株式市場は売り優勢の展開となりました。

主な業種別指数の騰落率



当ファンドの業種別組入比率
(2024年12月末時点)



インド株式はSENSEX指数、公益はBSE Utilities Index、不動産はBSE REALTY Index、エネルギーはBSE Energy Index、資本財はBSE CAPITAL GOODS Index、素材はBSE Commodities Indexを使用。

※各指数はインドの代表的株式指数として参照したもので、当ファンドのベンチマークではありません。

出所：ブルームバーグのデータをもとにHSBCアセットマネジメント株式会社が作成

データ等は過去の実績あるいは予想を示したものであり、将来の成果を示唆するものではありません。

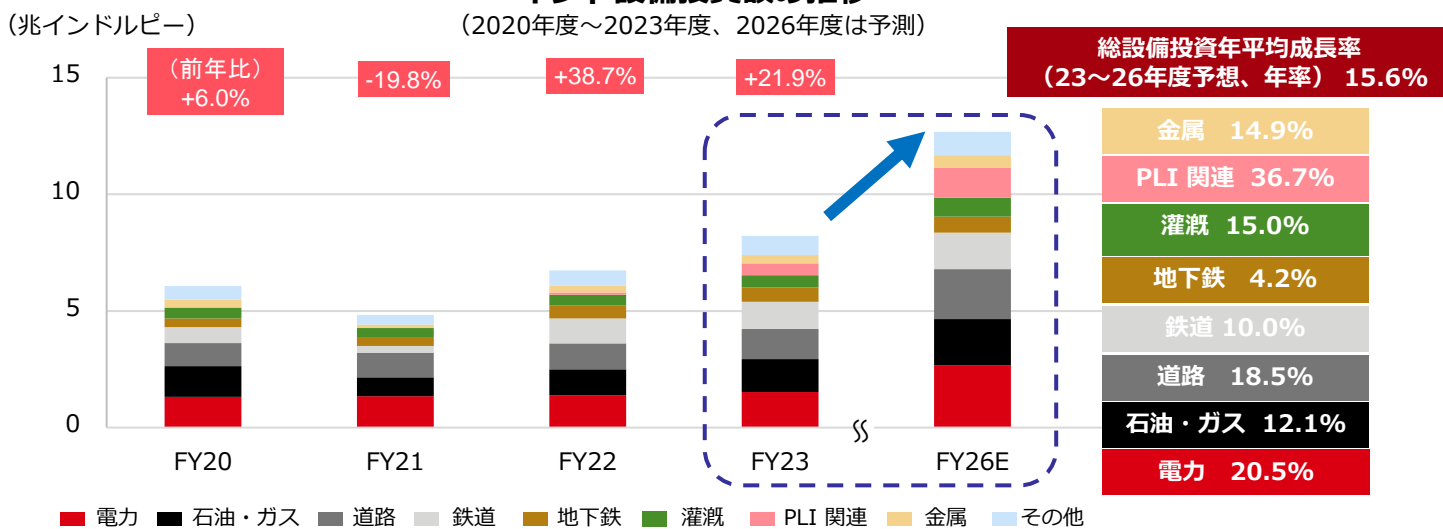
当資料の「留意点」については、後掲をご覧ください。

3.インフラ関連の進捗

- ◆ インド国内のインフラ関連に目を向けると、2026年度にかけて総設備投資額の年平均成長率は15.6%が見込まれ、特に電力、道路、PLI（生産連動型推奨策）は平均を上回る成長率になると見込みます。
- ◆ PLIは、インド国内製造業振興のための政策であり、携帯電話などの電子製品やグリーン水素などの再生可能エネルギーを含む全14分野について、適格基準を満たせば、新規工場を設立した製造業企業に対し、売上高の増加額などに応じてインセンティブ（補助金）を支給するスキームです。
- ◆ インフラ整備の一例として、高速鉄道だけでなく、地下鉄網の整備も急速に行われており、慢性的な道路渋滞も緩和すると見込まれています。

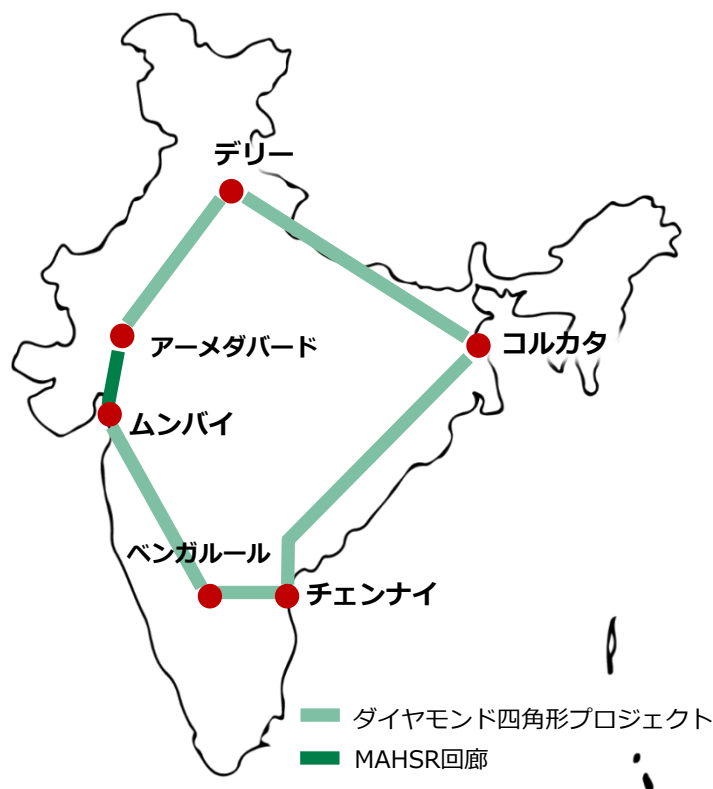
電力、道路、生産連動型奨励策（PLI）関連は平均を上回る設備投資の伸びが見込まれる

インド設備投資額の推移



(2024年8月30日時点)

出所：HSBCアセットマネジメント（インド）のデータをもとにHSBCアセットマネジメント株式会社が作成



ダイヤモンド四角形プロジェクト

デリー、ムンバイ、チェンナイ、コルカタの四大都市を結ぶ高速鉄道網

- ✓ ムンバイ-アーメダバード高速鉄道（MAHSR回廊）
 - ・ 全長約500km（2017年着工）
 - ・ 推定総プロジェクト費用は約2兆円（2024年6月時点）
- * 2024年12月31日の為替レート、1インドルピー=1.84円で換算

地下鉄網の整備

運用路線: 862.16 km
 建設中の路線: 663.12 km
 承認済みの路線: 244.77 km
 申請中の路線: 1,060.63 km

* 日本の地下鉄営業路線総延長距離: 847.4km（2025年1月時点）

ベヌゴパル・マンガート
 HSBCアセットマネジメント（インド）
 株式部門最高投資責任者（CIO）



通勤に車で2時間かかっていますが、地下鉄ができれば、30分程度に短縮されます！

出所：インド高速鉄道公社（NHSRCL）、インド鉄道省、インドメトロ、日本地下鉄協会、各種報道をもとにHSBCアセットマネジメント株式会社が作成

データ等は過去の実績あるいは予想を示したものであり、将来の成果を示唆するものではありません。

当資料の「留意点」については、後掲をご覧ください。

ヴァダヴァン港 – マハラシュトラ州

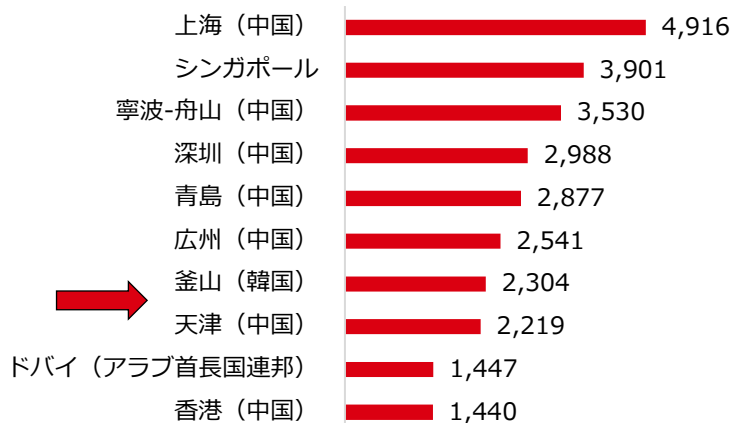
インドで最も深い港の1つ。港の建設費用は91億米ドルと見積もられている
2024年8月30日に着工式が行われた

- ◆ 最大級の船舶の寄港も可能に。
- ◆ インド中東ヨーロッパ経済回廊、国際南北輸送回廊などを通じ、国際的な貿易港となる見込み。
- ◆ 最終的には、2,300万TEU*の処理容量を持ち、世界有数の大規模港湾となる見込み。

世界の港湾別コンテナ取扱個数ランキング (2023年、万TEU)



写真はイメージ



* 物流における貨物の量を表す単位。20フィートの海上コンテナに換算した荷物の量を表す。

出所：Lloyd's List「One Hundred Container Ports 2024」のデータ、各種報道をもとにHSBCアセットマネジメント株式会社が作成

ポラヴァラム灌漑プロジェクト – アンドラ・プラデシュ州

ゴダーヴァリ川の多目的灌漑プロジェクト

- ◆ 全て完成すれば、約44万ヘクタールの大きさとなり、東京都の面積の約2倍となる見込み。
- ◆ 1000年に一度発生する可能性のある大洪水にも耐えられるように設計されており、世界最高の放水能力を有し、中国の三峡ダム（世界最大の水力発電所）の放水能力を上回る見込み。
- ◆ 用途は、産業用水、農業用水、飲料水、発電など多岐にわたる。



写真はイメージ

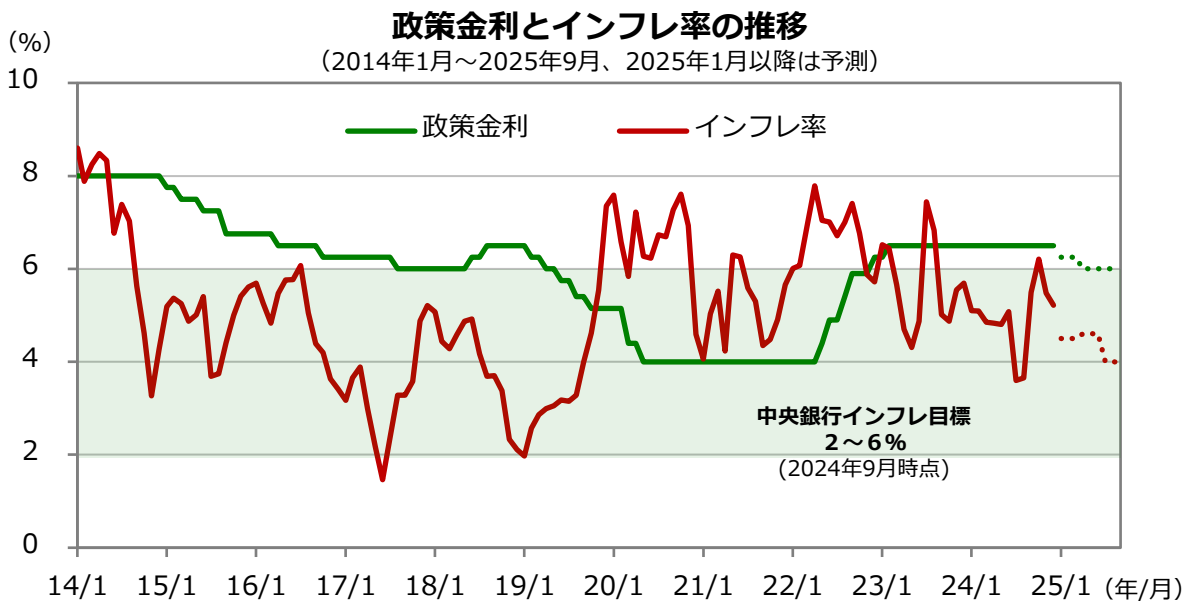
出所：各種報道をもとにHSBCアセットマネジメント株式会社が作成

データ等は過去の実績あるいは予想を示したものであり、将来の成果を示唆するものではありません。

当資料の「留意点」については、後掲をご覧ください。

4.今後の見通し

- ◆ 中央政府の設備投資はしばらく低迷していましたが、2024年11月以降増加傾向にあり、今後もその傾向が続くとみています。
- ◆ 足元、野菜価格の高騰などを背景にインフレ率が上昇していますが、季節的なものであり、時間の経過とともに落ち着く見通しです。弊社では年内2回（計0.50%）の利下げを見込んでおり、足元で下落基調にあるインフラ関連株にとって追い風になると見えています。
- ◆ 業種別利益成長率予想では、業種ごとにばらつきはあるものの、足元で下落基調にある不動産、資本財、素材において高い成長率が予想されています。

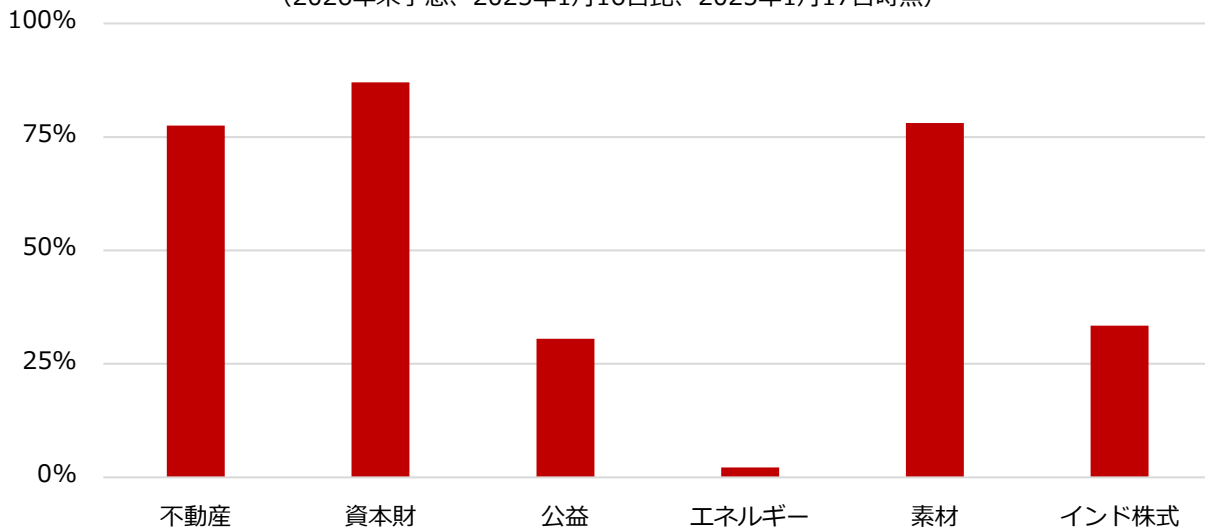


※ インフレ率は消費者物価指数（前年同月比）

2025年1月以降の政策金利はHSBCグローバルサーチ（2025年1月3日時点）、インフレ率はインド準備銀行（2024年12月6日時点）の予測値
出所：LSEG、HSBCグローバルサーチ、インド準備銀行のデータをもとにHSBC アセットマネジメント株式会社が作成

主な業種別指数の一株当たり利益成長率予想

(2026年末予想、2025年1月16日比、2025年1月17日時点)



インド株式はSENSEX指数、公益はBSE Utilities Index、不動産はBSE REALTY Index、エネルギーはBSE Energy Index、資本財はBSE CAPITAL GOODS Index、素材はBSE Commodities Indexを使用。

※各指数はインドの代表的株式指数として参照したもので、当ファンドのベンチマークではありません。

出所：ブルームバーグのデータをもとにHSBCアセットマネジメント株式会社が作成

データ等は過去の実績あるいは予想を示したものであり、将来の成果を示唆するものではありません。

当資料の「留意点」については、後掲をご覧ください。

5.当ファンドの運用方針

- ◆ 当ファンドは多様な事業機会を捉えてさまざまな業種や規模の企業に投資しており、指数別で見ると、相対的に中小型で比率が高い資本財や不動産などに投資しています。
- ◆ 1月上旬の下落局面では、健全なファンダメンタルズを有する銘柄の買い付けを行いました。
- ◆ マクロ経済の安定、構造的な成長要因（消費と設備投資サイクルの増加）がけん引し、2025年/2026年の企業利益成長率は年率10%台半ばを見込んでいます。インドと新興国市場の相関関係も近年低下しており、市場の調整は買いの好機と考えています。

インド株式の規模別指数における業種別構成比率

(2024年10月31日時点)

セクター	大型株	中型株	小型株
金融サービス	34%	20%	20%
ITサービス	13%	7%	5%
ヘルスケア	4%	11%	13%
耐久消費財	2%	4%	7%
資本財	5%	18%	19%
消費者サービス	1%	4%	4%
不動産	0%	3%	3%
化学	0%	7%	7%

大型株は Nifty 50 Index、中型株は Nifty Midcap 150 Index、小型株は Nifty Small Cap 250 Index を使用。
※各指数はインドの代表的株式指数として参照したもので、当ファンドのベンチマークではありません。

個別銘柄コメント (2025年1月16日時点)

- ◆ **DLF：住宅、商業および小売業向け不動産開発を手がける不動産会社**
 - ・ 超高級物件の増加により、25年度は会社予想を上回る予約販売となる可能性が高いと考えています。
 - ・ 同社は大規模な土地をすでに保有しており、土地収用に費用をかける必要がありません。
 - ・ 競合他社の中で潤沢なフリーキャッシュフローが見られ、セクター内でベストインクラスに値すると見えています。
- ◆ **REC：インドで再生可能エネルギープロジェクトを含む発電・送電・配電の融資・促進を行う**
 - ・ 恒常的な電力不足により、発電関係の融資需要は高く、15~16%の与信の伸びを予想しています。
 - ・ 中期的にはROE18%を達成する可能性があると考えています。
- ◆ **パワー・ファイナンス・コーポレーション：インドの電力業界を支える政府系金融機関にて、主に債券発行で調達した資金を官民の電力プロジェクトに貸出**
 - ・ 恒常的な電力不足により電力プロジェクトが旺盛であり、12%以上の与信の伸びを実現する見通しです。
 - ・ 利ざやと引当前営業利益は安定すると予想しています。
- ◆ **ウルトラ・テック・セメント：インドの大手財閥系アディティヤ・ビルラ・グループに属する大手セメント会社**
 - ・ 12月にセメント価格が若干上昇したことで、追加値上げを期待する楽観的な見方が広がっています。
 - ・ 10月~12月期に設備投資とインフラ推進が底打ちしたため、株価が底値に戻ることはないと考えています。
 - ・ 同社は業界をリードする販売量を誇っており、生産能力増強を図っていることから、素材価格の大きな上昇は期待できないものの、利益水準の高さからセクター内で最も有望な位置にあると見えています。
- ◆ **インド国営火力発電公社：インド各州に電力を供給する国営電力会社。電力施設建設プロジェクトのコンサルティングも手がける**
 - ・ いくつかの火力発電プロジェクトの稼働が遅れているため、25年度の利益予想を下回る可能性が高く、26年度の利益も若干減少する可能性があると考えています。
 - ・ しかし、これらは長期にわたるプロジェクトであるため、指標面では利益ではなく、保有する資産に注目しています。

記載の銘柄は2024年12月末時点における組入銘柄の一部であり、個別銘柄を推奨するものではありません。
出所：HSBCアセットマネジメント（インド）のデータをもとにHSBCアセットマネジメント株式会社が作成

データ等は過去の実績あるいは予想を示したものであり、将来の成果を示唆するものではありません。

当資料の「留意点」については、後掲をご覧ください。

当ファンドの基準価額と純資産総額の推移

(2009年10月1日～2025年1月17日)



基準価額は信託報酬（後掲の「当ファンドの費用」をご参照ください）控除後のものです。分配金再投資基準価額は税引前分配金を再投資したものです。将来の分配金は、運用状況によって変化します。

税引前分配金の推移 (1万口当たり)

決算期	分配金 (円)
第12期 (21年6月17日)	0
第13期 (22年6月17日)	60
第14期 (23年6月19日)	100
第15期 (24年6月17日)	100
設定来累計	260

* 将来の分配金は運用状況によって変化します。分配対象額が少額の場合等には、分配を行わないことがあります。

当ファンドの特色

「HSBC インド・インフラ株式マザーファンド」*1 への投資を通じて、主にインド共和国*2 のインフラに関連する株式等に投資することにより、信託財産の中長期的な成長を目指します。

*1 以下、「マザーファンド」といいます。 *2 以下、「インド」といいます。

1 インドの株式等に投資します。

▶ マザーファンドへの投資を通じて、以下の株式等に投資します。

投資対象企業	・インド国内のインフラ関連企業 ・インドのインフラに関連し、収益のかなりの部分をインド国内の活動から得ている、インド以外の国の企業
投資対象 有価証券	・インドの証券取引所（ボンベイ証券取引所、ナショナル証券取引所）に上場あるいはその他の取引所または取引所に準ずる市場で取引されている投資対象企業の株式 ・投資対象企業のADR（米国預託証券）やGDR（グローバル預託証券） ※ 預託証券とは、ある国の会社の株式を海外でも流通させるために、当該株式を銀行等に預託し、その見合いに海外で発行される証券のことをいいます。 ・投資対象企業の株価に連動するオプションを表示する証券または証券等 ※ Participatory Note (P-Note) を組み入れます。P-Note とは、金融業者（銀行、証券会社等）が投資対象国外で発行する証券で、投資対象国の特定の株価に連動します。

- ▶ 株式の実質組入比率は、原則として高位に維持します。
- ▶ 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

2 インドのインフラに関連する企業の株式の中から銘柄を厳選し、ポートフォリオを構築します。

インフラとは・・・ インフラストラクチャーの略で、道路、鉄道、港湾、空港、灌漑（かんがい）、電力、通信、公共住宅など、経済発展のために不可欠な社会基盤のことです。

3 HSBCグローバル・アセット・マネジメント（シンガポール）リミテッドが運用を行います。

- ▶ 運用委託契約に基づいて、HSBCグローバル・アセット・マネジメント（シンガポール）リミテッドに、マザーファンドの運用の指図に関する権限を委託します。
※ 運用の指図に関する権限の委託を中止または委託の内容を変更する場合があります。
- ▶ HSBCアセットマネジメントに加え、HSBCグループ内の情報ソースを活用します。

※市況動向やファンドの資金動向等によっては、上記のような運用ができないことがあります。

<分配金に関する留意点>

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがかさった場合も同様です。

【当資料で使用している指数について】

指数に関する知的財産権その他一切の権利は各指数の公表企業などに属します。また、指数公表企業などは指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

当ファンドの主なリスク

投資信託は**元本保証のない金融商品**です。また、投資信託は**預貯金とは異なることにご注意ください**。当ファンドは、主に値動きのある外国の有価証券を実質的な投資対象としますので、組入有価証券の価格変動あるいは外国為替の相場変動次第では、当ファンドの基準価額が下落し、投資者の皆さまの投資元本を割り込むことがあります。当ファンドの**運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属**します。

株価変動リスク	株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動します。株価は短期的または長期的に大きく下落することがあります。株式市場には株価の上昇と下落の波があり、現時点で価格が上昇傾向であっても、その傾向が今後も継続する保証はありません。
信用リスク	株式および債券等の有価証券の発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなる可能性があります。債券等への投資を行う場合には、発行体の債務不履行や支払遅延等が発生する場合があります。
為替変動リスク	外貨建資産の円換算価値は、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。
流動性リスク	急激かつ多量の売買により市場が大きな影響を受けた場合、または市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、機動的に有価証券等を売買できないことがあります。
カントリーリスク	投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または資本取引等に関する規制の変更や新たな規制が設けられた場合には、投資方針に沿った運用が困難になることがあります。新興国市場は、一般的に先進諸国の市場に比べ、市場規模が小さいことなどから、上記の各リスクが大きくなる傾向があります。
税制変更リスク	インド株式等への投資部分に対しては、インドの税制に従って課税されます。インドにおいては、非居住者による保有有価証券の売買益に対して保有期間に応じたキャピタル・ゲイン税等が課されます。税率、課税方法の変更、および新たな税制が適用された場合には、基準価額に影響を与える可能性があります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。



※上記のリスクをご理解いただき、投資の判断はご自身でなさいますようお願い申し上げます。

【留意点】

- 当資料は委託会社が作成した販売用資料です。当資料は信頼に足ると判断した情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料の記載内容等は作成時点のものであり、今後変更されることがあります。また、データ等は過去の実績あるいは予想を示したものであり、将来の成果を示唆するものではありません。
- 投資信託はリスクを含む商品であり、主に値動きのある有価証券(外国証券には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は組入有価証券の値動き、為替変動による影響を受けます。したがって、元本が保証されるものではありません。投資信託の運用成果(損益)はすべて投資者の皆さまに帰属します。
- 投資信託は預金または保険契約ではなく、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入の投資信託は投資者保護基金の保護の対象ではありません。当ファンドの購入のお申込みに関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(クーリング・オフ)の適用はありません。
- 購入のお申込みにあたりましては、投資信託説明書(交付目論見書)および契約締結前交付書面(目論見書補完書面等)を販売会社からお受取りの上、十分にその内容をご確認いただき、ご自身でご判断ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社：HSBCアセットマネジメント株式会社

<照会先>  電話番号 03-3548-5690  ホームページ
(受付時間は営業日の午前9時～午後5時) www.assetmanagement.hsbc.co.jp

投資顧問会社
(運用委託先)：HSBCグローバル・アセット・マネジメント(シンガポール)リミテッド

受託会社：三菱UFJ信託銀行株式会社

販売会社：委託会社の<照会先>でご確認いただけます。

※ 販売会社固有情報(金融商品取引業者(登録番号)、加入協会等)については、当資料内「お申込み・投資信託説明書(交付目論見書)」のご請求は「をご覧ください。販売会社は、投資信託説明書(交付目論見書)の提供場所になります。

お申込メモ／当ファンドの費用

<詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。>

お申込みメモ

購入単位	販売会社が個別に定める単位とします。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
換金単位	販売会社が個別に定める単位とします。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目に降に販売会社でお支払いします。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口換金には制限を設ける場合があります。
申込受付不可日	日本国内の営業日であっても、インドの証券取引所（ボンベイ証券取引所、ナショナル証券取引所）、香港の証券取引所の休場日のいずれかに該当する場合には、購入および換金の申込受付は行いません。
購入・換金の申込受付の中止および取消し	取引所における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、委託会社は購入・換金の申込受付の中止および取消しを行う場合があります。
信託期間	無期限（信託設定日：2009年10月1日）
繰上償還	ファンドの残存口数が10億口を下回った場合等には、信託を終了させる場合があります。
決算日	毎年6月17日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年1回の決算時に収益分配方針に基づき分配します。ただし、分配対象額が少額の場合等には分配を行わないことがあります。分配金の受取方法により、分配金を受取る「一般コース」と分配金を再投資する「自動けいぞく投資コース」の2つのコースがあります。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 益金不算入制度、配当控除の適用はありません。
その他	基準価額（1万口当たり）は、翌日の日本経済新聞朝刊に「印度インフラ」の略称で掲載されます。

当ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入時にご負担いただけます。購入金額に、 3.85%（税抜3.50%） を上限として、販売会社が個別に定める率を乗じて得た額とします。	商品内容の説明ならびに購入手続き等にかかる費用
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に 0.50% の率を乗じて得た額（換金時）	換金される投資者に換金で生じるコストを一部負担していただくものです。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）	年2.09%（税抜年1.90%） 以内 運用管理費用は、以下の信託報酬率により計算されます。			ファンドの日々の純資産総額に信託報酬率を乗じて得た額とします。ファンドの信託報酬は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の6ヶ月終了日、毎計算期末または信託終了のとき、ファンドから支払われます。	
純資産総額のうち、	25億円以下の部分	25億円超 50億円以下の部分	50億円超の部分		
	信託報酬率	税込	年1.76%		年1.87%
	税抜	年1.60%	年1.70%		年1.90%
内訳（税抜）	（委託会社）	年0.83%	年0.93%		年1.13%
	（販売会社）	年0.70%	年0.70%	年0.70%	分配金・換金代金の支払い、運用報告書等の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
	（受託会社）	年0.07%	年0.07%	年0.07%	運用財産の管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
その他費用・手数料	ファンドの保有期間中、その都度ファンドから支払われます。 ・有価証券売買委託手数料／保管銀行等に支払う外貨建資産の保管費用／信託財産に関する租税、信託事務処理に要する費用等 ・振替制度にかかる費用／印刷業者等に支払う法定書類の作成、印刷、交付および届出にかかる費用／監査法人等に支払う監査報酬等（純資産総額に対し上限年0.20%として日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の6ヶ月終了日、毎計算期末または信託終了のとき、ファンドから支払われます。） ※その他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率等を記載することができません。				

※ファンドの費用の総額については、投資者のファンドの保有期間に応じて異なるため、表記できません。

お申込み・投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は

(商号・金融商品取引業者の登録番号・加入協会の順に表示、証券・銀行・保険毎 五十音順、2024年12月30日現在)

金融商品取引業者名	金融商品取引業者	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	投資顧問業協会	一般社団法人日本先物取引業協会	一般社団法人金融商品取引業協会	一般社団法人第二種
あかつき証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第67号	○	○	○		
安藤証券株式会社	○		東海財務局長(金商)第1号	○				
いちよし証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第24号	○	○			
岩井コスモ証券株式会社	○		近畿財務局長(金商)第15号	○	○	○		
auカブコム証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○	
S M B C日興証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○	
株式会社S B I証券	○		関東財務局長(金商)第44号	○			○	○
FFG証券株式会社	○		福岡財務支局長(金商)第5号	○				○
岡三証券株式会社(岡三オンラインのみ)	○		関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○	
岡三にいがた証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第169号	○				
岡安証券株式会社	○		近畿財務局長(金商)第8号	○				
香川証券株式会社	○		四国財務局長(金商)第3号	○				
極東証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第65号	○				○
篠山証券株式会社	○		近畿財務局長(金商)第16号	○				
四国アライアンス証券株式会社	○		四国財務局長(金商)第21号	○				
株式会社証券ジャパン	○		関東財務局長(金商)第170号	○	○			
大和証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○	
中銀証券株式会社	○		中国財務局長(金商)第6号	○				
東海東京証券株式会社	○		東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	○	
八十二証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第21号	○	○			
百五証券株式会社	○		東海財務局長(金商)第134号	○				
松井証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第164号	○			○	
マネックス証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○	
むさし証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第105号	○				○
明和証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第185号	○				
山形証券株式会社	○		東北財務局長(金商)第3号	○				
UBS SuMi TRUSTウェルス・マネジメント株式会社	○		関東財務局長(金商)第3233号	○	○	○		
楽天証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○	
リーディング証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第78号	○				
リテラ・クリア証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第199号	○				
株式会社イオン銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)		○	関東財務局長(登金)第633号	○				
株式会社S B I新生銀行(委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)		○	関東財務局長(登金)第10号	○			○	
株式会社S B I新生銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)		○	関東財務局長(登金)第10号	○			○	
株式会社熊本銀行		○	九州財務局長(登金)第6号	○				
株式会社十八親和銀行		○	福岡財務支局長(登金)第3号	○				
株式会社但馬銀行		○	近畿財務局長(登金)第14号	○				
株式会社中国銀行		○	中国財務局長(登金)第2号	○			○	
株式会社東京スター銀行		○	関東財務局長(登金)第579号	○			○	
株式会社福岡銀行		○	福岡財務支局長(登金)第7号	○			○	
PayPay銀行株式会社		○	関東財務局長(登金)第624号	○			○	
ザ・ホンコン・アンド・シャンハイ・バンキング・コーポレーション・リミテッド		○	関東財務局長(登金)第105号	○			○	
株式会社三井住友銀行(インターネットのみ)		○	関東財務局長(登金)第54号	○			○	○

* 現在、岡安証券株式会社、ザ・ホンコン・アンド・シャンハイ・バンキング・コーポレーション・リミテッドでは新規のお取扱いをしておりません。

(※)一般社団法人日本暗号資産取引協会加入

HSBCアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第308号
 加入協会 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人
 日本投資顧問業協会/日本証券業協会